

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
TOEIC I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	TOEIC TEST Listening & Reading スコア400点以上
使用教科書・副教材等	TOEIC TEST 全パート まるごとスピードマスター 英会話ペラペラビジネス100
教員実務経験	海外事業部門で海外企業との技術導入に係る業務に携わった経験 航空機メーカー等との英語によるコミュニケーションを行った経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期 試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	① TOEIC TESTとは	4	休校(新型コロナ感染対策のため)	②～⑨ 試験
	② Part 1 写真描写問題	5	1) TOEIC TESTの概要を理解する	
	③ Part 2 応答問題		2) 写真を見て最も適切に描写している文を選択する	
	④ Part 3 会話問題	6	1) 質問に対する応答として最も適切な返事を選択する	
	⑤ Part 4 説明文問題		2) 会話やメッセージ等の説明文を聞いて設問に対する答えを選択する	
	⑥ 英会話 First Contact Lesson 1～10	7	1) 「初対面の人との成熟した大人としての接し方」ができる表現をマスターする。	
	⑦ Part 5 短文穴埋め問題	8	1) 長文・短文の空所に最適な語句を入れる問題を解く	
	⑧ Part 6 長文穴埋め問題		2) 長文を読んで内容を把握し設問に答える問題を解く	
	⑨ Part 7 読解問題	9		
	⑩ TOEIC TEST受験			
学 年	⑪ ハーフ模擬試験の実施と解説	10	1) 学習の仕上げとして、実際のTOEIC試験の半分のサイズでの模擬試験を行う。(リスニング約23分、リーディング38分) 2) 模擬試験の解答・解説を行う(Part 1～Part 3)	⑪～⑮ 試験
	⑫ 英会話 Light Contact Lesson 11～30	11	1) 「たまに会うような人といひrelationshipを築いていくため」の表現をマスターする	
	⑬ ハーフ模擬試験の解説	12	1) 模擬試験の解答・解説を行う(Part 4～Part 5)	
	⑭ 英会話 Regular Contact Lesson 31～50	1	1) 「いつも会うような人と互いにrespectしあうため」の表現をマスターする	
	⑮ ハーフ模擬試験の解説	2	1) 模擬試験の解答・解説を行う(Part 6～Part 7) 2) TOEIC TESTを受験する(2回目)	
	⑯ TOEIC TEST 受験	3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本作業 I	実習		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業の基礎となる基本作業の技能を習得する
使用教科書・副教材等	航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	課題・小テスト 50点未満
後期試験	課題・小テスト 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	各章の課題・小テスト成績	80 %	仮評価		%
	実習態度・安全対策	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①ベーシックマナー ②航空機整備 基本工具 ③機械計測 ④ベンチ作業 1 ⑤リベット ⑥ベンチ作業 2	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～⑥ 試験
			5	1) 整備の心構えを理解する 2) 基本工具の名称及び用途を理解する	
			6	1) ノギスの使用方法を理解する 2) マイクロ・メーターの使用方法を理解する	
			7	1) 弓鋸の使用方法を理解する 2) やすりの使用方法を理解する	
			8	1) リベッティング作業方法を理解する	
			9	1) ドリルの特性及びドリル作業方法を理解する 2) リーマー、ヘリコイルの使用方法を理解する	
	学 後 年 期	⑦ベンチ作業 3 ⑧締付法 ⑨電気計測	10	1) タップ、ダイス作業方法を理解する 2) 課題の文鎮制作	⑦～⑨ 試験
			11	1) 課題の文鎮制作	
			12	1) ボルト、ナットの用途、使用方法を理解する 2) トルク・レンチの取扱いを理解する	
			1	1) 安全線の掛け方の作業方法を理解する 2) コッター・ピンの取付の作業方法を理解する	
			2	1) マルチ・テスターの使用方法を理解する	
			3	1) メガ・テスターの使用方法を理解する	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
英語 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	わからないをわかるにかえる英検準2級
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	50 %	仮評価		%
	英単語小テストの成績	20 %			%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①3級重要文法	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～②
			5	1)現在完了がわかる	
			6	1)不定詞、関係疑問文がわかる	
			7	1)前置詞、関係代名詞がわかる	
	後	②英検3級対策	8	1)長文読解対策	
			9	1)リスニング対策	
	学 年 後 期	③2級重要文法 ④準2級対策	10	1)仮定法、関係副詞がわかる 2)重要慣用表現がわかる	③～④
			11	1)問題形式1 文法の穴埋め問題対策	
			12	1)問題形式2 会話文の穴埋め問題	
			1	1)問題形式3 短文理解の問題	
			2・3	1)問題形式1～3 総まとめ	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職実務 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	【前期】採用筆記試験対策として、一般常識を学習。 【後期】企業の採用活動、就職活動について理解させると共に、必要な企業の情報収集方法等から応募関係書類の準備作成を行い応募まで実践す
使用教科書・副教材等	【前期】就職試験サポートドリル 【後期】これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー
教員実務経験	専門学校での就職実務指導実績あり

2 追試験基準

前期試験	採点基準の50%未満
後期試験	採点基準の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価		%
	能動的活動への姿勢	15 %			%
	出席状況	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	【筆記試験対策】 一般常識 基礎学力	4	休校(新型コロナウイルス感染症対策のため)	① 前期試験
			5	・アイスブレイク ・自己紹介などを実施、学生との距離を詰める。(学生情報収取)	
			6	・履歴書作成 各航空企業のエントリーシート作成	
			7 8 9	①基礎学力 ・採用試験筆記対策、基礎学力 ・前期試験に備える	
	後 期	【面接対策とビジネスマナー】 面接の重要性 自己PRの作成	10	②面接対策 ・社会人としての基本的なビジネスマナーについて学習する。	② 後期試験
			11	・正しい言葉遣いや基本的な知識について学習する。 ・面接の大切さや目的について理解させる。	
			12	・企業説明会	
			1	・情報収集するための方法を知る。 ・収集した情報から企業絞り込み方法を理解させる。	
			2	・自己分析の重要性を理解させる。 ・自己分析の目的を理解させる。	
			3	・自己PR文の基本構成を理解させる。 ・これまでの学習内容を再確認させる。	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職対策 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	就職筆記試験に必要な知識を身につける。
使用教科書・副教材等	SPI基礎からはじめる問題集
教員実務経験	専門学校にて教員として就職筆記試験対策に関する指導経験あり

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 後 期	前	①数学の基本	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～②
			5	1) 四則計算 2) 小数の計算 3) 分数の計算 4) 割合	
		②SPI非言語	6	1) 損益算がわかる 2) 料金の割引がわかる	
			7	1) 分割払いがわかる 2) 代金の精算がわかる	
			8	1) 速さがわかる 2) 表の読み取りがわかる	
			9	1) 集計表がわかる 2) 推論がわかる	
	後	③言語	10	1) 組み合わせがわかる 2) 確率がわかる	②～③
			11	1) 物の流れと比率がわかる 2) 条件と領域がわかる	
			12	1) グラフの領域がわかる 2) 長文の読み取りがわかる	
			1	1) 二語関係がわかる 2) 熟語がわかる	
			2	1) 語の用法がわかる 2) 長文読解がわかる	
			3	1) 総まとめ	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	航空ビジネス科
企業研修	実習			学 年	一年次
			30	教員	比嘉 翼

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要な知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	50 %
	研修活動への取り組み	50 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期 ・ 後 期	①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①
			5	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	
			6		
			7		
			8		
			9		
			10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空力学 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	飛行機が離陸から着陸までの間に翼や胴体、プロペラなどに作用する力や、飛行機の運動および性能について理解している
使用教科書・副教材等	航空力学「超」入門
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 後 期	前	①航空力学とは ②空気の力学	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～②
			5	1) 空気の組成がわかる 2) 空を飛ぶときに働く4つの力がわかる	
			6	1) 飛行機の構成がわかる 2) 飛行機の3つの揺れがわかる	
			7	1) 標準大気がわかる 2) ベルヌーイの方程式がわかる	
			8	1) ピトー管がわかる 2) 対気速度がわかる	
			9	1) 気圧高度がわかる 2) エアデータがわかる	
	後	③揚力と抗力	10	1) 揚力がわかる 2) 揚力係数、迎え角がわかる	③
			11	1) 翼型がわかる 2) 翼面積、アスペクト比がわかる	
			12	1) 抗力がわかる 2) 誘導抗力、翼端渦がわかる	
			1	1) 形状抗力、摩擦抗力がわかる 2) 長短比と抗力がわかる	
			2	1) 造波抗力、臨海マッハ数がわかる 2) 全抗力がわかる	
			3	1年間のまとめ・復習	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機で使用する(ピストン・エンジン)の性能及び構造内容を理解する
使用教科書・副教材等	・航空工学 ・空飛ぶはなし
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 後 期	前	①航空エンジンの分類と発達 ②ピストン・エンジンの概念 ③エンジンの熱力学 ④エンジンの出力及び効率 ⑤エンジンの構造 ⑥燃料の燃焼 ⑦過給装置 ⑧燃料制御系統	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～⑧ 試験
			5	1)航空エンジンの分類を理解する 2)ピストン・エンジンの概念を理解する	
			6	1)エンジンの熱力学を理解する 2)ピストン・エンジンの出力及び効率を理解する	
			7	1)ピストン・エンジンの内部の構造を理解する	
			8	1)ガソリンの燃焼及びデトネーションについて理解する 2)過給機の目的及び型式を理解する。	
			9	1)燃料制御装置の内容を理解する	
			10	1)ピストン・エンジンの点火系統を理解する	①～⑭ 試験
	後	⑨点火系統 ⑩滑油と潤滑系統 ⑪冷却系統 ⑫航空燃料と燃料系統 ⑬始動装置 ⑭運用と整備 ⑮ピストン・エンジンのまとめ	11	1)ピストン・エンジンのと潤滑系統を理解する 2)ピストン・エンジンの冷却系統を理解する	
			12	1)航空燃料(ガソリン)の具備条件を理解する	
			1	1)ピストン・エンジンの始動条件を理解する	
			2	1)ピストン・エンジンの運用と整備に関する事を理解する	
			3	1)整備士試験問題集活用してピストン・エンジンに関する問題を理解する	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
機体構造 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の機体及び航空機のシステムの基礎的な構造を理解している
使用教科書・副教材等	飛行機構造、空飛ぶはなし
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①機体構造 1	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～② 試験
			5	1) 飛行機の主な構成部分を理解する	
			6	1) 構造にかかる荷重と応力を理解する 2) 構造部分の基本的な構造材料を理解する	
			7	1) 構造の種類(胴体、翼)構造を理解する 2) 構造の種類(尾翼、操縦翼面等)理解する	
	中	②空を飛ぶための力	8	1) 空を飛ぶ4つの力を理解する (重力、揚力、推力、抗力)	
			9	1) 空気について性質、ベルヌーイの法則を理解する 2) 大気、気圧、空気密度について理解する	
	学 年 後 期	③自由に飛べる仕組み	10	1) 翼の役割、翼の関係を理解する	③～⑤ 試験
			11	1) 自由に飛べるしくみ(操縦系統)について理解する 2) フラップの動き、役割を理解する	
		④機体構造 2	12	1) 風防、窓、ドア非常脱出口について理解する	
			1	1) 航空機の着陸装置の構造を理解する	
		⑤着陸装置	2	1) メイン・ギア・ステアリングの構造を理解する 2) ブレーキ系統の点検、整備内容を理解する	
			3	1) ホイール、タイヤの構造を理解する	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空ナビゲーション I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空気象の基礎を理解する
使用教科書・副教材等	図解 パイロットに必要な航空気象
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期 試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 期	前	① 気象の基礎	4	休校(新型コロナウイルス感染対策のため)	① 試験
			5	1) 大気の構造を理解する	
			6	1) 温度、気圧(高気圧、低気圧)、雲、霧、着氷について理解する	
			7	1) 大気の状態、安定度を理解する	
			8	1) 風、前線、台風について理解する	
			9		
	後	② 天気図 ③ 飛行の現場 ④ 飛行の現場	10	1) 実況図(地上予想図、高層予想図)を理解する	②～④ 試験
			11	1) 予想図(地上予想図、高層予想図)を理解する	
			12	1) 気象通報式(METAR、TAF)を理解する	
			1	1) 飛行場警報、飛行場気象情報を理解する	
			2	1) 飛行前ブリーフィング(気象情報の確認)を理解する 2) 実際の運航を理解する	
			3		

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空法規Ⅰ	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空法規(航空法、航空法施行規則)を理解する
使用教科書・副教材等	新航空法規解説
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務に従事した経験 運航規程の維持・管理業務に従事した経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期 試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 後 期	前 期	① 法令の概要及び総則	4	休校(新型コロナ感染対策のため)	①～③ 試験
		② 登録	5	1) 航空法の基本理念と体系を理解する	
		③ 航空機の安全性	6	1) 航空機の登録について理解する	
			7	1) 航空機の安全性一般について理解する 2) 耐空証明、型式証明、予備品証明について理解する	
			8	1) 発動機等の整備、航空整備士の確認について理解する 2) 事業場の認定について理解する	
			9		
	後 期	④ 航空従事者	10	1) 航空従事者技能証明について理解する	④～⑧ 試験
		⑤ 航空機の運航	11	1) 航空路、空港、航空保安施設について理解する 2) 航空機の運航について理解する	
			12	1) 航空機の運航について理解する(続き)	
			1	1) 航空運送事業について理解する	
		⑦ 罰則	2	1) 罰則について理解する 2) 人間の能力及び限界について理解する	
		⑧ 人間の能力及び限界	3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
エアラインオペレーション I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空の歴史からはじまり、各職種の業務内容やエアラインのオペレーションについて理解する
使用教科書・副教材等	エアラインオペレーション入門
教員実務経験	大手グランドハンドリング会社にて実務経験あり

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 期	前	①航空の歴史	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～③
			5	1)世界の航空輸送の歴史がわかる 2)世界の航空会社とアライアンスがわかる	
			6	1)日本の航空輸送の変遷がわかる 2)空港整備の経緯と現状がわかる	
		②グランドハンドリング業務	7	1)地上支援業務の流れがわかる 2)地上支援作業に使用する車両・器材がわかる	
			8	1)空港の3レターコードがわかる 2)航空会社の2レターコード・3レターコードがわかる	
		③グランドスタッフ業務	9	1)グランドスタッフ業務の流れがわかる 2)定時制の向上への取り組み、保安・安全性の順守がわかる	
	後	④航空整備士業務	10	1)飛行機の基本構造がわかる 2)飛行機の安全設計がわかる	④～⑥
			11	1)整備士の業務内容、資格がわかる 2)整備の種類がわかる	
		⑤客室乗務員業務	12	1)客室乗務員の業務がわかる 2)客室乗務員の1日の流れがわかる	
			1	1)保安業務がわかる 2)サービス業務、セールス業務がわかる	
		⑥保安検査業務	2	1)保安検査業務の流れがわかる 2)税関、出入国審査、検疫がわかる	
			3	1年間のまとめ・復習	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本技術 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機整備作業に必要な基本的な技術を習得する
使用教科書・副教材等	航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習態度への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期 学 年 期	前	①SI単位 ②作図知識 ③成形法 ④リベット ⑤構造修理	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～⑤ 試験
			5	1) SI単位の換算方法を理解する	
			6	1) 作図の知識を理解する	
			7	1) 成形法、折り曲げのレイアウトの知識を理解する	
			8	1) リベットの型式、材料と特性を理解する	
			9	1) 構造修理の基本原則を理解する	
	後	⑥締付法 ⑦金属材料 ⑧1年次のまとめ	10	1) ボルト、ナットの種類、取扱方法を理解する 2) トルクレンチを使用時のトルク値の計算方法を理解する	①～⑦ 試験
			11	1) 安全線の材料と使用方法を理解する 2) コッター・ピンの材料と使用方法を理解する	
			12	1) 金属材料の機械的性質を理解する (アルミニウム合金、チタニウム合金、炭素鋼、マグネシウム合金)	
			1	1) 金属材料の試験方法を理解する 2) 金属材料の機械的性質を変える方法を理解する	
			2	1) 各金属材料の特徴、規格、航空機での使用箇所を理解する	
			3	1) 1年次学習した項目を整備士試験問題集活用して復習する	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空燃料	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空燃料、航空機への給油方法について理解するとともに、航空燃料を取り扱う際に必要な危険物取扱者乙種4類を取得する
使用教科書・副教材等	乙4類 危険物取扱者 受験教科書
教員実務経験	危険物取扱者乙種4類を所持し、危険物取扱業務の経験あり

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	①航空燃料の概要	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～⑤
	②物理学と化学の基礎知識	5	1) 航空燃料の種類がわかる 2) 燃料給油方式がわかる	
	③燃焼と消火の知識	6	1) 熱の移動、物質の状態変化がわかる 2) 酸化・還元反応、有機化合物の性質がわかる	
	④危険物の性質	7	1) 燃焼の三要素がわかる 2) 消火の仕組みや消火剤の種類がわかる	
	⑤危険物に関する法令	8	1) 消防法で定める危険物がわかる 2) 第4類危険物の性質がわかる	
		9	1) 消防法についてわかる	
学 年 後 期	⑥危険物取扱者試験対策	10	1) 危険物の規制に関する政令がわかる 2) 危険物の規制に関する規則がわかる	⑥～⑧
		11	1) 演習問題を繰り返し、出題形式に慣れる	
	⑦航空機への給油	12	1) 給油前の燃料検査方法がわかる 2) 航空機への給油方法がわかる	
		1	1) 燃料計算がわかる 2) 計算後のリミットがわかる	
	⑧燃料計算	2	1) 燃料消費量の概要がわかる	
		3	1年間のまとめ・復習	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
航空無線 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空特殊無線技士資格取得 航空無線通信士 無線工学及び英語の内容を理解する
使用教科書・副教材等	①やさしく学ぶ航空無線通信士試験 ②航空無線通信士 英語試験問題集 ③航空無線通信士標準教科書(無線工学、法規、英語) ④航空特殊無線技士 受験対策用プリント
教員実務経験	航空無線通信士の資格を有して無線業務に従事した経験

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期 試験成績	80 %	仮評価		%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	① 無線検定試験について	4	休校(新型コロナ感染対策のため)	③～⑦ 試験
		② 電気通信術の練習			
		③ 無線工学 第1章～第5章	5	1) 無線従事者検定試験の試験内容について説明 2) 電気通信術の試験内容について説明し、要領を理解する	
		④ 無線工学 第6章～第9章	6	1) 電波の性質、波長と周波数、電界・磁界について理解する 2) 電気回路、電子回路、半導体、アナログ通信等を理解する	
		⑤ 無線工学 第10章～第11章	7	1) 送信機、受信機について理解する 2) 電波航法、航法無線装置、電源について理解する	
		⑥ 電気通信術の練習	8	1) 空中線及び給電線について理解する 2) 電波の伝搬について理解する	
		⑦ 無線工学 過去問の実施	9	3) 過去問を解き、その内容を理解する	
学 年	後	【航空特殊無線技士 受験対策】	10	1) 航空特殊無線技士資格の取得をめざして受験対策(無線工学・法規、電気通信術)を行う 2) 検定試験の傾向と対策を理解する 3) 航空無線通信士の英語試験の内容を理解する	⑧～⑩ 試験
		⑧ プリントによる過去問の学習	11		
		⑨ 過去問(無線工学・法規)の実施と解答・解説	12		
		⑩ 航空無線通信士 英語過去問題①	1		
		過去問題②	2		
		⑪ 直前対策	3	1) 過去問の内容を理解し合格をめざす	
	期	⑫ 検定試験受験(2月中旬)			

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
英語 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	わからないをわかるにかえる英検準2級
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席80%未満
後期	出席80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	50 %	仮評価		%
	英単語小テストの成績	20 %			%
	課題・学習活動への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①3級重要文法	4	休校(新型コロナウイルス感染対策の為)	①～②
			5	1)現在完了がわかる	
			6	1)不定詞、関係疑問文がわかる	
			7	1)前置詞、関係代名詞がわかる	
	②英検3級対策		8	1)長文読解対策	
			9	1)リスニング対策	
	後	③2級重要文法 ④準2級対策	10	1)仮定法、関係副詞がわかる 2)重要慣用表現がわかる	③～④
			11	1)問題形式1 文法の穴埋め問題対策	
			12	1)問題形式2 会話文の穴埋め問題	
			1	1)問題形式3 短文理解の問題	
			2・3	1)問題形式1～3 総まとめ	

6 特記事項

--